

海外食料需給レポート

(2021 年 3 月)

令和 3 年 3 月 3 1 日

農林水産省

海外食料需給レポートについて

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

このレポートは、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

5 本レポートに記載のない情報は以下を参照願います。

(1) 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し(農林水産政策研究所)：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

(2) 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

(3) その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<http://www.fao.org/home/jp/>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<http://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関(代表的なものです)

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<http://www.agr.gc.ca/eng/home/?id=1395690825741>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

目 次

概要編

I	2021 年 3 月の主な動き	1
II	2021 年 3 月の穀物等の国際価格の動向	2
III	2020/21 年度の穀物需給（予測）のポイント	2
IV	2020/21 年度の油糧種子需給（予測）のポイント	2
V	今月の注目情報 伸びるブラジルの生産を取り巻く状況	3

（資料）

1	穀物等の国際価格の動向	6
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	7
3	令和 2 年 9 月以降の食品小売価格の動向	8

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
2	とうもろこし	8
3	コメ	1 3
II	油糧種子	
	大豆	1 8

【利用上の注意】

(概要編)

I 2021 年 3 月の主な動き

1 アルゼンチンの高温乾燥によるとうもろこし、大豆への影響

3 月に入り、アルゼンチンの 2020/21 年度産のとうもろこしや大豆は成熟期を迎えているが、主産地のブエノスアイレス州等での高温乾燥の影響で、単収の低下が懸念されている。

ブエノスアイレス穀物取引所の 3 月 11 日付け週報によれば、2021/21 年度の大豆、とうもろこしの生産量について、双方とも 2 月時点では 4,600 万トンと見込んでいたが、高温乾燥の影響により、大豆は 4,400 万トン、とうもろこしは 4,500 万トンとそれぞれ下方修正された。3 月中旬以降、降雨があり、乾燥の影響が一部緩和されたとみられる。

2 米国の冬小麦地帯の寒波と乾燥の影響

米国のグレートプレーンズ等の冬小麦地帯で、2 月中下旬に記録的な寒波が襲来し、スノーカバーの少なかった地域等で 2021/22 年度の冬小麦に凍害、冬枯れ等の被害が一部で発生したとみられる。米国農務省によれば、3 月 7 日時点で、カンザスでは、冬小麦の作柄のやや不良～不良の比率が 27%（前年同期 18%）、テキサスではやや不良から不良の比率は 39%（前年同期 34%）といずれも前年度より悪化した。なお、3 月中旬以降、降雨があったため、影響は緩和されたとみられる。今後、休眠期を終了し、生長を再開するとみられるが、一部地域で乾燥が継続していることから、注視が必要である。

3 伸びるインドのコメ輸出と減少するタイのコメ輸出

ここ数年、インドでは降雨に恵まれ、コメの生産が 5 年連続増産で、2020/21 年度のコメ生産量は史上最高を更新し、USDA によれば 1 億 2,100 万トンの見通し。潤沢な供給量を背景に輸出価格も主要輸出国で最も安く競争力があり、輸出量も史上最高の 1,550 万トンが見込まれている。

一方、近年まで世界一位のコメ輸出国であったタイの輸出は減少し、USDA によれば 2020/21 年度は 610 万トンでベトナムに抜かれ 3 位に転落する見通し。サブサハラ向け市場をインドに奪われたのが要因とみられる。

写真：田植えが終了したインド 西ベンガル州のラビ（乾季）米 （2021 年 3 月 5 日撮影）



Ⅱ 2021 年 3 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、2 月末、240 ドル/トン前後で推移。3 月に入り、米国冬小麦地帯の記録的な寒波と乾燥天候による影響懸念から一時、240 ドル/トン台半ばに上昇したものの、米国冬小麦生産地での降雨による作柄改善見通しやドル高の影響から値を下げ、3 月中旬現在、230 ドル/トン前後で推移。

とうもろこしは、2 月末、210 ドル/トン台後半で推移。米国産とうもろこしの輸出が中国向けを中心に順調なペースを維持した一方、アルゼンチンの乾燥やブラジルの過度の降雨がその後改善したこと、価格は小幅に上下し、3 月中旬現在、210 ドル/トン台後半で推移。

コメは、2 月下旬、560 ドル/トン台後半で推移。3 月に入り、新穀の乾季米の市場流通が始まったことによりコメ価格が下がるとの見方から海外需要が落ち着いていること、タイバーツ安から値を下げ、3 月中旬現在、540 ドル/トン台前半で推移。

大豆は、2 月末、510 ドル/トン台半ばで推移。ブラジルの降雨による収穫遅れとアルゼンチンの乾燥天候による懸念等により 3 月上旬に 530 ドル/トン近くまで値を上げたものの、その後、とうもろこし同様に、南米の生産地の天候が改善したこと等から上値が抑えられ、3 月中旬現在、520 ドル/トン前後で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場、米はタイ国家貿易委員会価格

Ⅲ 2020/21 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前月から 970 万トン上方修正され 27.3 億トン。消費量は、前月から 1,140 万トン上方修正され 27.4 億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

また、期末在庫率は前年度を下回り 29.1%となる見込み（資料 2 参照）。

生産量は、前月と比較して、小麦、とうもろこし、コメで上方修正され、穀物全体で上方修正され 27.3 億トンの見込み。

消費量は、前月と比較して小麦、とうもろこし、コメで上方修正され、穀物全体上方修正され 27.4 億トンの見込み。

貿易量は、小麦、とうもろこしで上方修正され、4.7 億トンの見込み。

期末在庫量は、8.0 億トンと前月より下方修正され、期末在庫率は前年度を下回る。

(注：数値は 3 月の米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

Ⅳ 2020/21 年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.0 億トン。消費量は前年度を上回り 6.1 億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

なお、期末在庫率は前年度を下回り、15.9%となる見込み。

(注：数値は 3 月の米国農務省「Oilseeds : World Markets and Trade」による)

V 今月の注目情報:伸びるブラジルの穀物生産を取り巻く状況

ブラジルのとうもろこし、大豆の穀物や油糧種子の生産量は年々増加しており、2020/21年度は、とうもろこしは1億トン超、大豆は1億3千万トン超で史上最高が見込まれている。現在、大豆や夏とうもろこしは収穫期であるが、作付けの遅延に加え、収穫期の降雨により平年より遅れている。最近の状況をまとめた。

1 伸びるブラジルの穀物生産

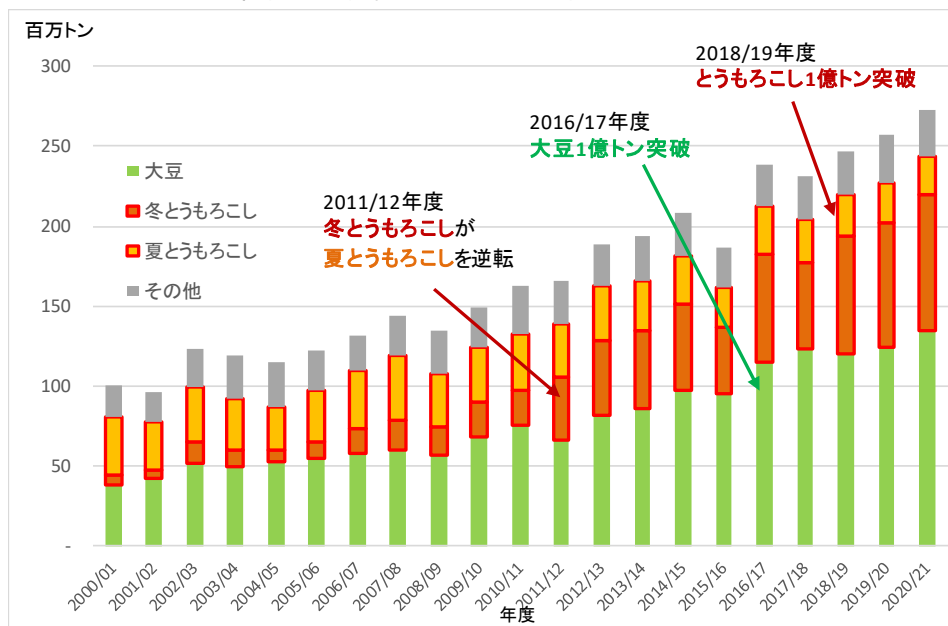
(1) 伸びる穀物生産

3月11日に公表された CONAB (ブラジル食料供給公社) の見通しでは、穀物(大豆など油糧種子含む)の生産量は年々増加している。2020/21年度の穀物等の作付面積は、2月より上方修正され、前年度(6,590万ヘクタール)より3.6%増の6,830万ヘクタール。生産量見通しは、前月より400万トン上方修正され、前年度(2億5,710万トン)より6%増加し、2億7,230万トンで史上最高の見込みとなっている。ブラジルの穀物等のうち、大豆ととうもろこしがともに1億トンを超える生産量となっており、全体の9割程度を占めている。他にコメや小麦の生産もあるが、近年は、収益性の良い大豆などと比べて伸び悩んでいる。

(2) 世界1位の大豆生産国

現在収穫期を迎えている大豆については、中国向けの輸出増等から年々生産量が増加しており、2020/21年度は、作付面積は4.1%増加の38.5百万ヘクタールで生産量は対前年度比8.2%増の1億3,510万トンで史上最高となる見込み。生産量は2019/20年度以降、米国を抜いて世界1位、輸出量は2012/13年度以降、世界1位を守つ

図1 ブラジルの穀物・油糧種子の生産量の推移(9割が大豆・とうもろこし)



出典: CONAB データ (2021. 3. 11) をもとに農林水産省で加工

ている。主産地は中西部のマトグロッソ州が1位で国内生産量の1/4を占め、2位以下は南部のパラナ州、リオグランデドスル州となっている。2020/21年度は、前年度乾燥被害のあったリオグランデドスル州で生産量が回復する見通し。

輸出先は中国向けが大半を占め、2020年の輸出量8,300万トン(前年7,400万トン)のうち中国向けは6,060万トンであった。

(3) 伸びる冬とうもろこしの生産

ブラジルでは20年前までは、とうもろこしと大豆を10月頃同時に作付けていたが、大豆の中国向け輸出需要増から、大豆の作付けを優先し、とうもろこしは、大豆の収穫が終

了した圃場で翌年 2 月から 3 月以降、2 毛作として作付けするようになった。これを冬とうもろこし（サフリーニャ）とよび、近年生産量が大幅に増加し、現在では全体の 7 割以上の生産量を占めている。

2020/21 年度は、収穫期の夏とうもろこしの生産量は 2,350 百万トン(前年度比 8.6%減)で、大豆収穫後の現在作付け中の冬とうもろこしの生産量は 8,460 万トンで大幅に増加し、とうもろこし計で、生産量は 1 億 810 万トン(対前年度比 5.4%増)で、史上最高となる見通し。主産地は、大豆の裏作のため、大豆同様、1 位がマトグロッソ州、続いてパラナ州となっている。

夏とうもろこしは収穫時期が大豆と重なり、輸出が競合することから、国内飼料需要向けが多く、大豆と収穫時期が異なる冬とうもろこしが主に輸出に向けられている。2020 年の輸出量 3,460 万トン（前年 4,260 万トン）のうち主要輸出先はイランや我が国で、それぞれ 440 万トン、430 万トンとなっている。

(4) 我が国と同程度のコメ生産

他の穀物では、これから収穫期を迎えるコメは、2020/21 年度の実産量は、1,100 万トン（もみベース）で精米に換算すると我が国の生産量とほぼ同程度で、栽培されているにはインディカ（長粒）種である。近年は主産地の南部のリオグランデドスル州で、収益性の良い大豆に切り替わるなど生産量は伸び悩んでいる。

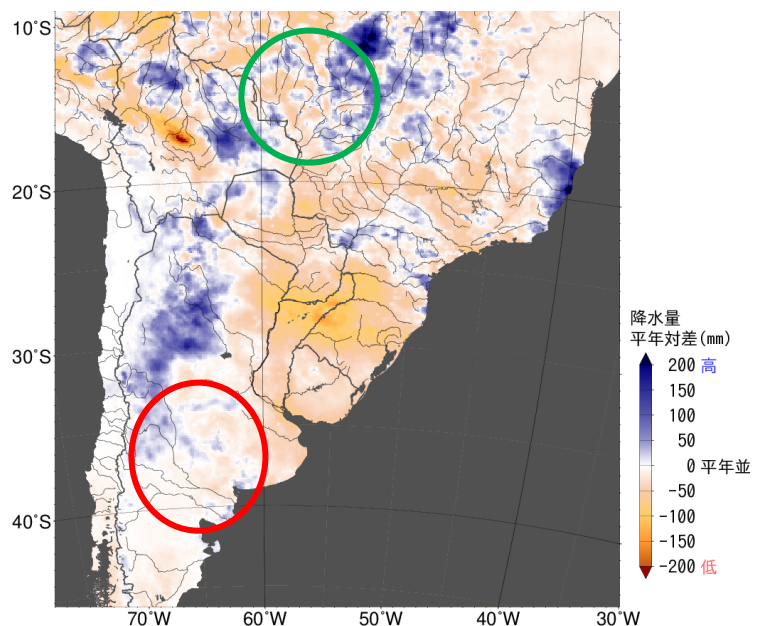
小麦は、2020/21 年度は、生産量は 620 万トンが見込まれているが、需要量を下回っており、生産量を超える 600 万～700 万トンアルゼンチン等から輸入している。一方、国内で食用グレードに満たなかった小麦は東南アジア等に飼料用として輸出されることもある。

2 大豆の収穫遅れと冬とうもろこしの作付け遅れ

(1) 大豆の収穫遅れ

ブラジル大豆や夏とうもろこしに関し、例年であればマトグロッソ州等の主産地では、9月から10月の春の降雨を待って作付けされるが、この降雨が1ヶ月程度遅れたため、作付けも遅れた。この結果、例年であれば2月当初から開始される収穫も遅延した。主産地のマトグロッソ州では、2月26日時点の大豆の収穫進捗率52%で過去5年平均より18ポイント遅れていた。さらに3月以降、主産地で降雨過多となり、収穫に支障が生じた。3月12日時点で、マトグロッソ州の収穫進捗率は80%で過去5年平均より8ポイント遅れて

図2 南米の3月上旬の降水量の平年との差
ブラジル マトグロッソ州は平年より雨が多い（緑丸）
アルゼンチン中央部の主産地は平年より雨が少ない（赤丸）



注：JAXA「GSMaP降水量プロダクト」を加工して作成

資料：農林水産省「農業気象情報衛星モニタリングシステム」

（JAXA「GSMaP 降水量プロダクト」を加工して作成）

いる等、過去10年間で最も遅いペースとなっている。

(2) 輸送や船積みの遅れ

収穫の遅延に伴って、港湾までの輸送や船積みも影響を受けた。北部ではトラックが渋滞となり、荷受け待ちの船が滞船した。

2021年2月のブラジルの輸出は2.9百万トンで前年同月(4.8百万トン)より減少。結果として、ブラジルの輸出遅延で、2月は大豆の需要が米国産に集中したため、高値で輸出されることとなった。

(3) 冬とうもろこしの作付遅れ

大豆の収穫が遅れた結果、収穫後、同じ圃場に作付される冬とうもろこしの作付も遅延している。3月12日時点で主産地のマトグロッソ州の冬とうもろこしは88%作付済みで平年(97%)より遅れている。

USDA(米国農務省)によれば、ブラジルの冬とうもろこしの作付面積は、最近の国内外の価格上昇により農家の作付意欲が刺激され、増加するとみられている。一方、ブラジル中西部の雨季は4～5月までで終了し乾季に入るため、作付遅れにより、最も水分が必要な生育期に降雨が不十分となり、単収低下のリスクがあるとしている。

写真：マトグロッソ州の大豆の収穫

作付け遅れに加え降雨で遅れた(3月5日撮影)



3 国際価格や貿易への影響

大豆の収穫も、主産地では3月中には概ね終盤を迎えるとみられており、前年を大きく上回る生産量が見込まれている。また、ブラジルでは新型コロナの感染対策として、穀物輸送を担うトラック運転手に対してエッセンシャルワーカーとして優先的なワクチン接種を実施するなど支援が行われている。輸出市場もブラジル産の収穫に伴い、徐々に米国産から切り替わるとみられているため、輸出については今後大きな支障はないとみられる。とうもろこしについては、今後の冬とうもろこしの生育期の天候に留意する必要がある。

なお、隣国のアルゼンチンのとうもろこし、大豆の生産量については、生育期の乾燥の影響で前年度より減産となる懸念がある。また、2021年産の米国産の大豆、とうもろこしの作付面積は最近の価格上昇から増加するとみられている。

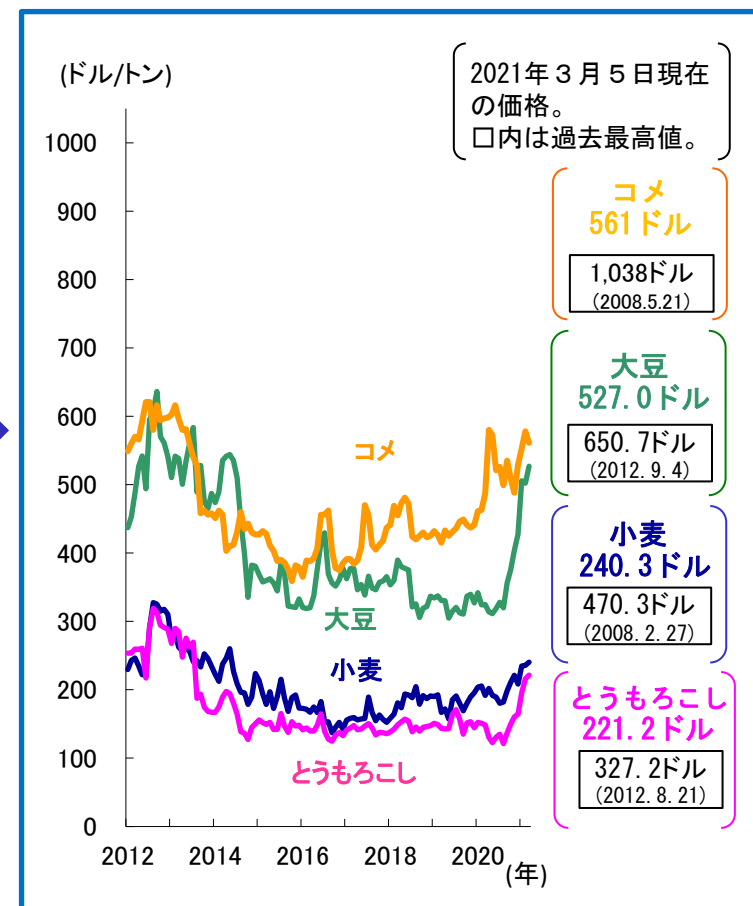
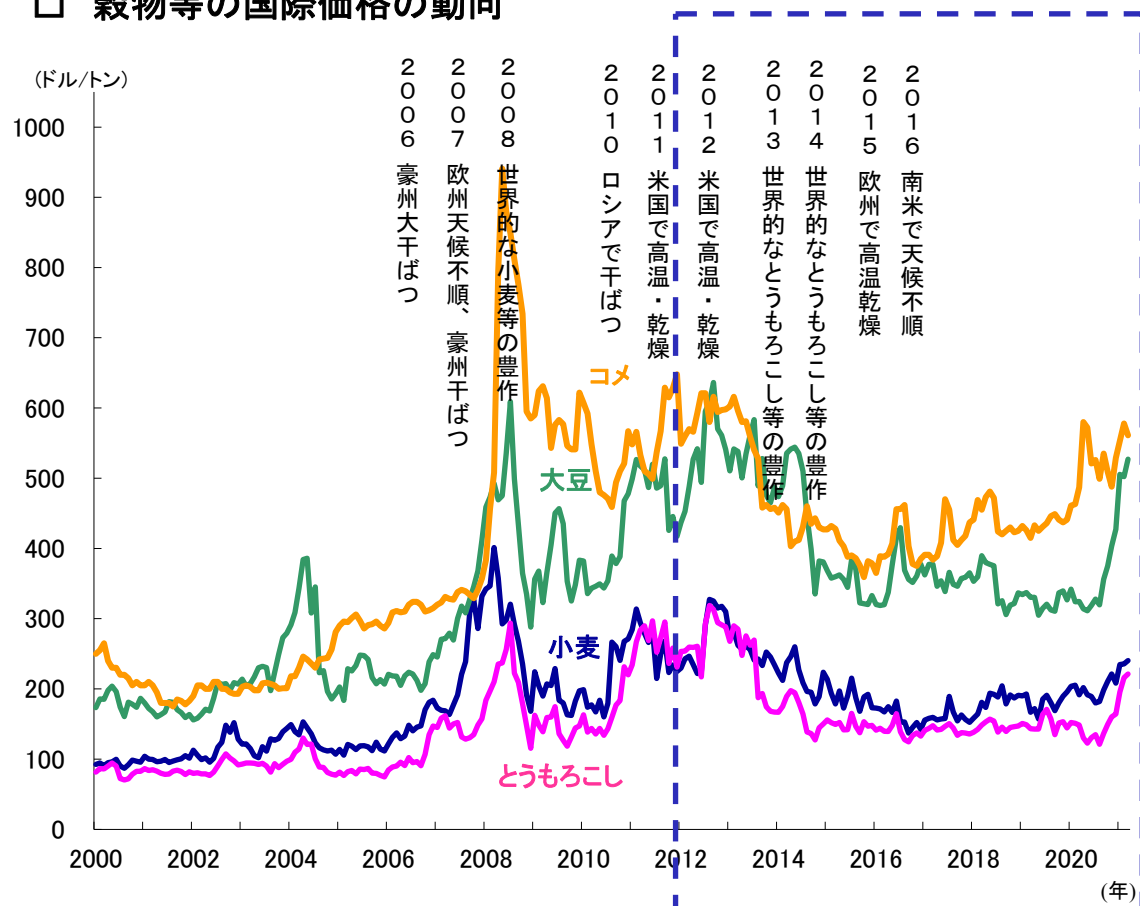
一方、中国が2月25日にラテンアメリカ・カリブ海農業フォーラムを開催し、唐農業農村部長は、2020年の中国とラテンアメリカ農産物貿易は542億ドルとなっているが、2030年には1000億ドルに倍増させると発言している。以前、輸入をしていなかったブラジル産とうもろこしについてもCOFCO(糧油グループ)が買付を行っているともいわれている。しかし、本年に入り中国内ではASFの発生が継続しており、穀物需要面に与える影響が不透明な部分もある。引き続き、ブラジルの生産・輸出動向と中国の輸入動向について注視していく。

資料 1 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

○とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2017年以降ほぼ横ばいで推移も、2020年後半から南米の乾燥懸念、中国の輸入需要の増加等により、大豆を中心に上昇。コメは、2013年以降低下したが、2020年ベトナムの輸出枠の設定等により3月末から上昇。4月末の輸出枠の解除等で下落も、依然として高止まり。

○なお、穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要により、2008年以前を上回る水準で推移している。

□ 穀物等の国際価格の動向



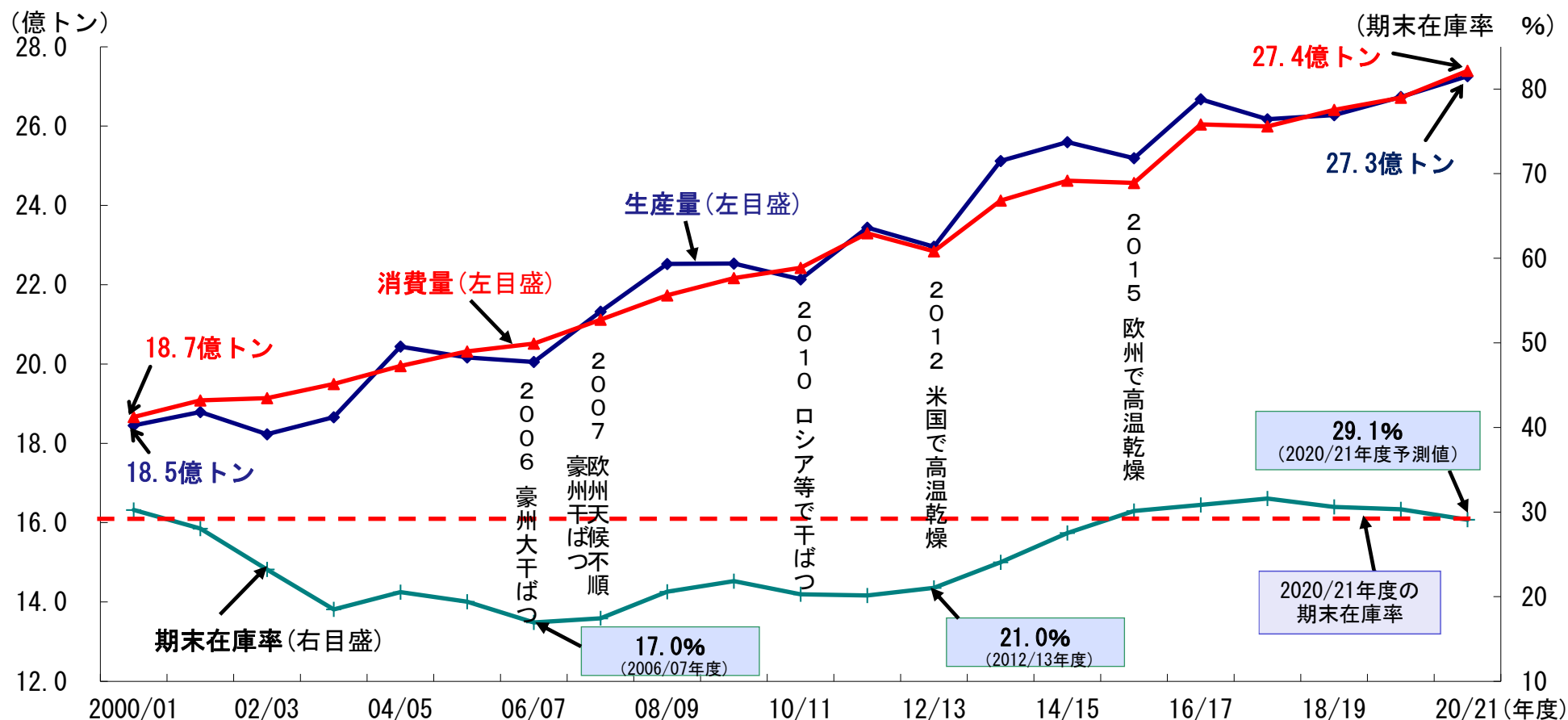
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2020/21年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2020/21年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、29.1%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(March 2021)、「PS&D」

(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料3 令和2年9月以降の食品小売価格の動向

○ 加工食品の国内の食品小売価格については大きな値動きはなし。

令和2年9月～令和3年2月の 食品小売価格の動向

消費者物価指数(総務省)														
	H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R2				R3		
品目	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	9月	10月	11月	12月	1月	2月	上昇率 (前年 同月比)
生鮮食品を 除く総合	97.7	100.0	99.7	100.2	101.0	101.7	101.5	101.3	101.3	101.2	101.1	101.4	101.5	-0.4%
食パン	98.5	100.0	101.1	100.9	101.4	102.3	101.2	100.9	101.0	100.7	100.4	100.4	100.2	-1.5%
即席めん	94.2	100.0	100.0	99.5	99.0	102.4	103.9	102.6	103.5	104.1	102.8	104.1	104.4	-0.5%
豆腐	98.0	100.0	100.0	100.5	100.7	101.0	101.9	102.1	102.7	102.9	102.9	102.4	102.7	1.1%
食用油 (キャノーラ油)	102.8	100.0	97.8	94.5	93.3	92.8	92.0	92.2	91.9	91.8	91.0	91.3	91.0	-1.0%
みそ	100.6	100.0	99.4	99.1	99.6	101.4	102.3	102.6	103.0	102.3	100.5	101.2	102.0	0.2%
チーズ	97.9	100.0	99.3	98.8	102.6	102.9	101.7	103.0	102.2	101.9	100.7	101.4	102.0	-0.2%
バター	95.0	100.0	101.5	101.7	102.0	102.3	102.4	102.4	103.1	102.8	102.3	102.3	102.4	0.1%
マヨネーズ	103.5	100.0	98.1	96.7	95.3	95.1	94.5	94.8	94.4	94.6	93.2	93.8	94.6	0.7%

資料：総務省消費者物価指数

注1：平成27年の平均値を100とした指数で表記している。

【参考】令和2年10月～令和3年3月の 食品小売価格の動向

食品価格動向調査(農林水産省)																
	H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R2			R3					
品目	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	10月	11月	12月	1月	2月	3月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)	
食パン	97.7	100.0	100.9	99.5	99.8	103.2	101.9	101.6	101.6	101.4	101.2	101.6	101.6	0.0%	0.0%	
即席めん	93.3	100.0	99.8	99.6	99.5	105.3	107.6	106.5	107.2	106.5	106.5	107.2	107.2	0.0%	-0.7%	
豆腐	100.3	100.0	96.9	95.6	95.0	95.7	94.8	93.9	93.9	94.3	94.7	96.3	93.9	-2.6%	-1.3%	
食用油 (キャノーラ油)	102.8	100.0	96.3	94.6	94.6	100.1	96.7	95.9	96.2	95.3	95.0	94.0	93.7	-0.3%	-3.2%	
みそ	99.0	100.0	99.8	101.6	106.8	111.0	110.5	109.6	109.9	108.5	109.4	111.0	109.9	-1.0%	-0.7%	
チーズ	97.1	100.0	100.0	99.7	103.2	105.7	104.8	105.3	105.3	104.8	104.8	105.8	104.8	-1.0%	-0.5%	
バター	94.6	100.0	101.3	102.0	102.3	102.7	103.3	103.2	103.2	103.2	103.4	103.2	103.4	0.2%	0.4%	
マヨネーズ	101.6	100.0	99.2	98.4	97.2	102.4	99.3	98.3	98.0	98.0	98.3	98.3	98.0	-0.3%	-2.0%	

資料：農林水産省 食品価格動向調査(加工食品)

注1：平成27年の平均値を100とした指数で表記している。

注2：調査は原則、各都道府県10店舗で週1回実施。ただし、平成30年10月以降は月1回実施。

注3：調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4：令和3年1月の調査は、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県での調査を中止し、2月の調査は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、大阪府、京都府、兵庫県、愛知県、岐阜県、福岡県で、3月は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県での調査を中止したことから、それぞれ前月の値とは接続しない。

また、令和2年4月の調査は、東京都、大阪府、埼玉県、千葉県、神奈川県、兵庫県、福岡県で、5月の調査は東京都、大阪府、北海道、茨城県、埼玉県、千葉県、神奈川県、石川県、岐阜県、愛知県、京都府、兵庫県、福岡県で調査を中止し、6月の調査は全国で再開したことから、それぞれ前月の値とは接続しない。